の群が南方系であることを相像させる。したがつてこの群の東亜えの分布は中國南部から台湾をとうして北上してきたか，かつて廣く分布していたものが環境の變化で南方え移動し，各地に遺存種を残したと考えられる。北端であるサツキヒナノウスツボがかなり古くから存在する秩父山塊に関係をもつので古くからすでに分布が完了していたと思われる。日本列島を漸次北上したものならば，變化の少ない群であつても末端のものはかなり變化したものであつてもよいのに，台湾の種類と秩父の種類とのあいだにはそれほどいちじるしい相違はないようである。また現在の生育地は，森林地帯の稍陰湿の場所で，比較的生活條件の變化をうけにくい環境であることなどから，過去の分布の遺存的なものでこの群が南方え移動したあとを Kakudenses がしめたと考えた方が穏当のようである。北アフリカと欧洲に廣く分布する *S. auriculata* L.，ピレネー，カンタブリアン山脈の *S. alpestris* Gay. などに類似形態が認められるようである。

本研究は本田先生の御指導のもとに行つたものであり，種々御援助下された東大植物教室，標本の自由な閲覧を許された國立科学博物館，京大植物教室の方々，貴重な標本を寄送された故吉村文五郎氏，竹内敬氏，阿部近一氏に深謝します。*

○周防滑山國有林の羊歯類　（岡　國夫）

K. OKA: Ferns from Namera Gov. Forest, Yamaguchi Pref.

山口縣佐波郡滑山國有林は中國脊梁山脈の西端に近く，面積 2500 ha. 海抜 250~930 m. の間にあり。此の範囲内に産する羊歯類は確実なものだけで 97 種 5 変種あり，種類数の豊富なことは中國地方第一である。此の中暖地性のものは 64 種 5 変種で，本林が内陸地帯に位置するに拘らず，その割合に於ても，種類数に於ても中國地方を通じて最も多く，又産量も暖地性のものが著しく多い。又寒地性のものが最下部まで下降し，暖地性のものと混然とよく交つて生育してゐる。

以上の事実を説明するには此の山が藩政時代以來よく保存された（小泉，植物学雑誌 30, 1916）といふことと共に，気象上山口縣は極めて複雑な地域であるといふことも考慮しなければならない。

分布論上特に注意すべきものは，タカサゴキジノヲ *Plagiogyria adnata* Beddome，ホオノカワシダ *Ctenitis shikokiana* H. Ito，イワヤシダ *Diplaziopsis javania* C. Chr.，イヨクヂヤク *Diplazium Okudairai* Makino，クラガリシダ *Drymotaenium Miyoshianum* Makino，ヒメサジラン *Leptogramme grammitoides* C. Chr.，ヒメムカゴシダ *Monachosorum Arakii* Tagawa，コタニワタリ *Phyllitis scolopendrium* Newman 等がある。

（山口縣立山口高等農業学校）

＊附記　ヒナノウスツボの地下莖は地中を横にはうものであり，前號には縦に圖示し芽も上にむいているけれど芽の方向は鉢植したために不自然になつている。